

地域の力で未来を拓く～那須野ヶ原みらい電力の挑戦とビジョン～ Pioneering the future with the power of the community ~ Challenge and Vision of Nasunogahara Future Energy Co., Ltd.~

○鈴木大介
SUZUKI Daisuke

1. はじめに

那須野ヶ原みらい電力株式会社は、那須塩原市内の中小企業 4 社、NPO1 法人、那須塩原市、地域金融機関 3 行、コンサル 1 社が株主となり 2022 年に設立した地域新電力会社で、50%以上の株式を那須塩原市内の民間法人が保有する民間主導の企業である。

当社の設立の目的は 2 つある。1 つ目は地域の脱炭素を推進すること。2 つ目は地域貢献事業を推進することである。この二つの目的は相互に補完し合い、当社のビジョンである“持続可能なまちづくり”の達成に繋がると考えている。本稿では、当社の那須地域での取組を紹介する。

2. 那須野ヶ原の歴史

那須野ヶ原は栃木県北東部に位置する 4 万ヘクタールの国内最大の複合扇状地であり、扇状地という地理的条件により、表層部には水が無く、当地域に住む先人たちは「水を求めて」大変な苦労をしてきた地域である。しかしながら、現在では市町村別農業産出額で那須塩原市、大田原市を合算すると約 750 億円を出荷する全国的に見ても重要な農業地域となっている。

この背景には、明治時代に行われた那須疏水の開墾事業をはじめとし、昭和時代に行われた那須野ヶ原総合開発事業により深山ダムが建設され、赤田調整池、戸田調整池などの水源施設を併せ持つ疏水網により、年間を通して安定した水を得ることが出来たことである。

3. 那須野ヶ原みらい電力の設立

那須疏水には、国営土地改良事業として始めて設置された那須野ヶ原発電所や、落差工を利用した百村第一、第二発電所など小水力発電所が複数個所設置されている。かつて荒涼とした大地が、水で潤い、穂豊かな地域となり、疏水の流れがエネルギーとなっているのである。しかしながら、このエネルギーは土地改良施設の FIT 事業として利用されているのみで、市民が活用できる電源ではなかった。

この疏水の電源を地域で利用できるよう、地元の有志で協力し合い、設立されたのが小売電気事業を行う那須野ヶ原みらい電力株式会社である。

4. 那須野ヶ原みらい電力の取組（小売電気事業、レジリエンス事業）

那須塩原市の行政施設（小中学校、公民館）への電力供給を行っている。主な電源は小水力発電所（折戸発電所）と市内のクリーンセンターである、過不足分の電源は JPEX から調達している。現在、4 期目を迎えているが、設立初年度から黒字にて経営を行っている。

また、2023年度より環境省補助事業である「地域レジリエンス・脱炭素化を同時実現する公共施設への自立・分散型エネルギー設備等導入推進事業」を活用し、市内の指定避難所3施設に、太陽光発電設備・蓄電池・LED照明を設置した。これにより、再生可能エネルギーの活用と災害時のレジリエンス機能を供給している。

施設名	導入設備概要
いきいきふれあいセンター	太陽光発電:30.34kW 蓄電池:35.3kWh LED照明
南公民館	太陽光発電:12.3kW 蓄電池:22.1kWh LED照明
三和住宅にしなすのスポーツプラザ	太陽光発電:118.89kW 蓄電池:132.5kWh LED照明

5. 那須野ヶ原みらい電力の取組（脱炭素先行地域）

2022年度に「脱炭素先行地域」の一つとして那須塩原市が選定され、当社も共同提案者として「青木地区ゼロカーボン街区」の構築に取り組んでいる。

当該地区は酪農が盛んな地域であり、酪農施設をはじめ、一般事業所、住宅への太陽光発電所の設置事業や、青木サッカー場を中心とするマイクログリッドの構築事業等を進めている。「ここに住んでいれば生き延びられる」という市長の考えを具現化する事業を構築している。また、当該事業の副産物として、地域ブランドを高めるゼロカーボンミルクの販売など、電力事業だけでなく、ゼロカーボンである付加価値を活用する事業も検討している。

今後は、脱炭素先行地域である青木地区だけではなく、それ以外の地域においても積極的に地元電源である再生可能エネルギーの導入を、私たち地元主導のもとに進めていく予定である。

6. 那須野ヶ原みらい電力の取組（地域貢献事業）

設立理念は先人から受け継がれた地域への想いのバトンを次世代へ繋ぐことにあ。かつて荒涼とした那須野ヶ原地域を、緑豊かな地域へと、その風景を変えてきた先人への尊敬と感謝を、次世代に繋げるために、今まさに現役世代である私たちが次の那須野ヶ原の風景を創る気概が必要である。

持続可能な地域を創るために、次世代を担う子どもたちに私たちの取組を理解してもらうことが必要であり、小中学校での環境教育に力を入れている。

更に、当社の利益を地域課題への解決に向けて、投資することも検討している。例えば、耕作放棄地の問題や農業従事者の高齢化など、地域課題の解決による地域共感を高める事業構築にも関わっていきたい。また、那須は人が集まる観光地であることから、経済循環を創り出しやすい地域である。那須特有の資源循環と経済循環を同時実現する事業を地域の方々と協力し挑戦を行っていく。



キーワード：資源循環と経済循環の同時実現、那須疏水、地域新電力、持続可能なまちづくり